

解 答 一 覽 表

ミニテスト 第1章 管理会計の目的 (p5)

解答

ア：企業経営の意思決定 イ：経常的な経営管理 ウ：臨時的な経営管理

ミニテスト 第2章 管理会計と原価計算 (p8)

解答

ア：原価計算制度 イ：特殊原価調査

ミニテスト 第3章 管理会計に有用な原価情報 (p12)

解答

ア：原価態様 イ：アクティビティ・コスト ウ：キャパシティ・コスト エ：管理可能費
オ：管理不能費 カ：責任会計

ミニテスト 第4章 原価予測の方法 (p22)

解答

問題 1

変動費率： ¥1,800 固定費： ¥1,080,000

問題 2

変動費率： ¥33,000 固定費： ¥1,650,000

ミニテスト 第5章 CVP分析と感度分析(p38)

解答

第1回

問1

損益分岐点売上高：¥180,000 損益分岐点販売量：150個

問2

目標営業利益を達成する売上高：¥780,000 販売量：650個

問3

損益分岐点比率：75% 安全余裕率：25%

第2回

問1

甲社：10 乙社：5

問2

甲社：¥600,000 乙社：¥300,000

問3

[ケース1]：¥9,750,000 [ケース2]：¥8,550,000 [ケース3]：¥5,550,000

[ケース4]：¥5,625,000

ミニテスト 第6章 利益の最大化(p49)

解答

問1

最適セールス・ミックス：製品A 3,500個、製品B 1,250個

貢献利益：¥20,100,000

年間営業利益：¥8,700,000

問2

設問1

最適セールス・ミックス：製品A 3,000個 製品B 1,500個

設問2

年間営業利益：¥8,400,000

ミニテスト 第7章 標準原価計算 (p 75)

解答

第1回

問1

〔第1法〕各原価要素別標準消費量を正常仕損率の分だけ増やす方法

直接材料費	: ¥600	× 10.2 kg	= ¥6,120
直接労務費	: ¥2,100	× 2.04 時間	= ¥4,284
変動製造間接費	: ¥900	× 2.04 時間	= ¥1,836
固定製造間接費	: ¥1,500	× 2.04 時間	= <u>¥3,060</u>
製品A 1個あたり総標準製造原価			<u>¥15,300</u>

〔第2法〕正常仕損費を含まない単位あたりの正味標準製造原価に、正常仕損費を特別費として加算する方法

直接材料費	: ¥600	× 10 kg	= ¥6,000
直接労務費	: ¥2,100	× 2 時間	= ¥4,200
変動製造間接費	: ¥900	× 2 時間	= ¥1,800
固定製造間接費	: ¥1,500	× 2 時間	= <u>¥3,000</u>
製品A 1個あたり正味標準製造原価			¥15,000
正常仕損費	: ¥15,000 × 正常仕損率 2%		= <u>¥300</u>
製品A 1個あたり総標準製造原価			<u>¥15,300</u>

問2

完成品総合原価	: ¥30,600,000
月末仕掛品原価	: ¥4,284,000
標準原価差異	: ¥635,160 (借方差異・不利差異)

問3

完成品総合原価	: ¥30,600,000
月末仕掛品原価	: ¥4,200,000
異常仕損費	: ¥150,000
標準原価差異	: ¥482,160 (借方差異・不利差異)

第2回

問1

原料X：原料配合差異 ¥16,380（貸方差異・有利差異） 原料歩留差異：¥37,800（借方差異・不利差異）

原料Y：原料配合差異 ¥10,530（借方差異・不利差異） 原料歩留差異：¥16,200（借方差異・不利差異）

問2

労働歩留差異 ¥72,000（借方差異・不利差異） 労働能率差異 ¥198,000（借方差異・不利差異）

問3

X作業者グループ：

労働ミックス差異 ¥27,000（借方差異・不利差異） 労働能率差異 ¥81,000（借方差異・不利差異）

Y作業者グループ：

労働ミックス差異 ¥36,000（貸方差異・有利差異） 労働能率差異 ¥72,000（借方差異・不利差異）

ミニテスト 第8章 直接標準原価計算 (p.98)

解答

第1回

問1

全部標準原価計算の原価標準

標準原価カード			
	標準単価	標準消費量	金額
直接材料費	¥600	3kg	¥1,800
直接労務費	標準賃率 ¥2,100	標準直接作業時間 2時間	¥4,200
製造間接費	標準配賦率 ¥2,400	標準直接作業時間 2時間	¥4,800
	製品1個あたりの標準製造原価		<u>¥10,800</u>

直接標準原価計算の原価標準

標準原価カード			
	標準単価	標準消費量	金額
直接材料費	¥600	3kg	¥1,800
直接労務費	標準賃率 ¥2,100	標準直接作業時間 2時間	¥4,200
変動製造間接費	標準配賦率 ¥990	標準直接作業時間 2時間	¥1,980
	製品1個あたりの標準変動製造原価		<u>¥7,980</u>
	製品1個あたりの標準変動販売費		<u>¥1,020</u>

問2

直接材料費差異：△ ¥234,000(借方差異・不利差異)

材料消費価格差異：△ ¥114,000(借方差異・不利差異)

材料消費数量差異：△ ¥120,000(借方差異・不利差異)

問3

直接労務費差異：△ ¥285,000(借方差異・不利差異)

賃率差異：△ ¥75,000(借方差異・不利差異)

作業時間差異：△ ¥210,000(借方差異・不利差異)

問4

変動製造間接費差異：△ ¥249,000(借方差異・不利差異)

予算差異：△ ¥150,000(借方差異・不利差異)

能率差異：△ ¥99,000(借方差異・不利差異)

問5

固定製造間接費差異：△ ¥90,000(借方差異・不利差異)

変動販売費差異：△ ¥66,000(借方差異・不利差異)

固定販売費及び一般管理費差異：△ ¥330,000(借方差異・不利差異)

第2回

問1

損益計算書(直接標準原価計算)		
I 売上高		22,000,000
II 標準変動売上原価		<u>11,704,000</u>
標準変動製造マージン		10,296,000
III 標準変動販売費		<u>1,496,000</u>
標準貢献利益		8,800,000
IV 変動原価差異		
1. 材料消費価格差異	－152,000	
2. 材料消費数量差異	－160,000	
3. 賃率差異	－100,000	
4. 作業時間差異	－280,000	
5. 予算差異	－200,000	
6. 能率差異	－132,000	
7. 変動販売費差異	<u>－44,000</u>	<u>－1,112,000</u>
実際貢献利益		7,688,000
V 固定費予算額		
1. 固定製造間接費	4,700,000	
2. 固定販売費及び一般管理費	<u>1,800,000</u>	<u>6,500,000</u>
VI 固定原価差異		
1. 固定製造間接費差異	－120,000	
2. 固定販売費及び一般管理費差異	<u>－440,000</u>	<u>－560,000</u>
営業利益		<u>628,000</u>

問2

全部標準原価計算の営業利益：¥3,292,000

ミニテスト 第9章 企業予算の編成 (p117)

解答

第1回

問1

販売予測額：¥84,000,000

問2

売上高予算表

令和〇年 第1四半期

製品	X	Y	合計
販売数量	6,500 個	10,000 個	16,500 個
単位売価	¥7,200	¥3,120	
売上高	¥46,800,000	¥31,200,000	¥78,000,000
売上品構成比率	60%	40%	100%

問3

製造原価予算表

令和〇年 第1四半期

費目	製品X			製品Y			合計
	標準原価	製造数量	金額	標準原価	製造数量	金額	
直接材料費	¥3,840	6,000 個	¥23,040,000	¥576	9,500 個	¥5,472,000	¥28,512,000
直接労務費	¥1,440	6,000 個	¥8,640,000	¥1,440	9,500 個	¥13,680,000	¥22,320,000
製造間接費	¥480	6,000 個	¥2,880,000	¥480	9,500 個	¥4,560,000	¥7,440,000
標準原価	¥5,760		¥34,560,000	¥2,496		¥23,712,000	¥58,272,000

問 4

現金収支予算表

令和〇年 第1四半期 (単位：円)

項 目	金 額	
期首有高	9,600,000	
現金収入		
売掛金の回収	77,280,000	
資金の借り入れ	6,000,000	
現金収入合計		83,280,000
現金支出		
買掛金の支払い	35,220,000	
労務費の支払い	22,320,000	
製造間接費	7,440,000	
その他の支払い	5,190,000	
利息の支払い	180,000	
機械の購入	1,800,000	
借入金の返済	3,090,000	
現金支出合計		75,240,000
予算期末有高		17,640,000

第2回

予定損益計算書

製品	令和〇年 第1四半期		(単位：円)
	製品X	製品Y	合計
売上高	46,800,000	31,200,000	78,000,000
売上原価	<u>37,440,000</u>	<u>24,960,000</u>	<u>62,400,000</u>
売上総利益	<u>9,360,000</u>	<u>6,240,000</u>	15,600,000
販売費及び一般管理費			5,550,000
支払利息			<u>180,000</u>
当期純利益			<u>9,870,000</u>

予定貸借対照表

令和〇年 第1四半期		(単位：円)	
流動資産		流動負債	
現金	17,640,000	買掛金	6,036,000
売掛金	9,120,000	借入金	<u>2,910,000</u>
製品	4,128,000	流動負債合計	8,946,000
原材料	150,000	固定負債	
その他	<u>2,700,000</u>	社債	<u>4,500,000</u>
流動資産合計	34,038,000	負債合計	<u>13,446,000</u>
固定資産		純資産	
土地	5,400,000	資本金	6,000,000
建物・設備	9,300,000	利益準備金	1,500,000
差引：減価償却累計額	<u>△2,760,000</u>	任意積立金	4,500,000
固定資産合計	<u>11,940,000</u>	繰越利益剰余金	<u>20,532,000</u>
資産合計	<u>45,978,000</u>	純資産合計	<u>32,532,000</u>
		負債・純資産合計	<u>45,978,000</u>

解答

第1回

問1

売上高差異：¥1,440,000(貸方差異・有利差異)

販売価格差異：△ ¥960,000(借方差異・不利差異)

販売数量差異：¥2,400,000(貸方差異・有利差異)

問2

売上原価差異：△ ¥2,064,000(借方差異・不利差異)

売上原価価格差異：△ ¥336,000(借方差異・不利差異)

売上原価数量差異：△ ¥1,728,000(借方差異・不利差異)

問3

売上総利益差異：△ ¥624,000(借方差異・不利差異)

総利益額差異：△ ¥1,296,000(借方差異・不利差異)

販売数量差異：¥672,000(貸方差異・有利差異)

問4

販売費差異：△ ¥208,000(借方差異・不利差異)

一般管理費差異：¥40,000(貸方差異・有利差異)

問5

製品 St

販売数量差異：△ ¥2,100,000(借方差異・不利差異)

総販売数量差異：△ ¥900,000(借方差異・不利差異)

組み合わせ差異：△ ¥1,200,000(借方差異・不利差異)

製品 Dx

販売数量差異：△ ¥1,500,000(借方差異・不利差異)

総販売数量差異：△ ¥900,000(借方差異・不利差異)

組み合わせ差異：¥2,400,000(貸方差異・有利差異)

第2回

問1

1. 変動売上原価差異

変動売上原価差異：△ ¥1,968,000(借方差異・不利差異)

変動売上原価価格差異：△ ¥691,200(借方差異・不利差異)

変動売上原価数量差異：△ ¥1,276,800(借方差異・不利差異)

2. 変動販売費差異

変動販売費差異：△ ¥211,200(借方差異・不利差異)

変動販売費価格差異：△ ¥48,000(借方差異・不利差異)

変動販売費数量差異：△ ¥163,200(借方差異・不利差異)

問2

現金収支表予算実績分析表

令和〇年

(単位：円)

項目	予算	実績	差異
前月繰越	4,800,000	4,840,000	40,000(有利)
現金収入			
売掛金の回収	41,120,000	40,520,000	△600,000(不利)
資金の借り入れ	8,000,000	8,000,000	
収入合計	49,120,000	48,520,000	△600,000(不利)
現金支出			
原材料費の仕入れ	22,320,000	21,720,000	600,000(有利)
労務費の支払い	13,400,000	13,600,000	△200,000(不利)
その他経費の支払い	4,920,000	5,000,000	△80,000(不利)
利息の支払い	240,000	240,000	
機械の購入	2,400,000	2,400,000	
配当金の支払い	2,000,000	2,000,000	
借入金の返済	4,120,000	4,120,000	
支出合計	49,400,000	49,400,000	3200,000(有利)
予算期末有高	4,520,000	4,280,000	△240,000(不利)

ミニテスト 第 11 章 経営意思決定の概要 (p 147)

解答

ア：関連収益 イ：関連原価 ウ：差額収益 エ：差額原価 オ：差額利益
カ：機会原価 キ：無関連収益 ク：無関連原価

ミニテスト 第12章 業務的意思決定 (p156)

解答

問1

結論： 内製する方が ¥600,000 だけ原価が低く有利なので、意思決定として内製する案を採用します。

問2

結論： 追加注文を引き受けた場合、差額利益が ¥90,000 生じるので、この注文は引き受けた方が有利とわかるため、意思決定として追加注文を引き受ける案を採用します。

問3

結論： 追加加工をおこなうと、差額利益が△ ¥60,000 生じるので、追加加工をおこなうべきでない。

ミニテスト 第13章 構造的意思決定 (p175)

解答

第1回

問1

結論：A案の方が原価が低いため、A案を採用する。

問2

結論：B案の方が回収期間が短いため、B案を採用する。

問3

結論：B案の方が投資利益率が高いため、B案を採用します。

第2回

問1

結論：正味現在価値がプラスとなるため、採用すべきと判断できる。

問2

結論：内部利益率が資本コスト率を上回るため、採用すべきと判断できる。

第3回

問1

第0年度末	第1年度末	第2年度末	第3年度末	第4年度末	第5年度末
△400万円	128万円	128万円	128万円	128万円	128万円

問2

X設備の正味現在価値：1,492.08万円　Y設備の正味現在価値：2,052.48万円

結論：Y設備を使用した方が正味現在価値が560万円大きいので、X設備をY設備に取り替える方が有利と判断できます。

問3

結論：新規設備導入案の正味現在価値は2,302.87万円であり、正味現在価値がプラスになるため、案の新規設備を導入すべきと判断できます。

ミニテスト 第14章 企業の組織構造 (p182)

解答

ア：責任や権限の委譲 イ：職能別組織 ウ：事業部制組織

ミニテスト 第15章 業績測定の方法 (p192)

解答

問1 6.16%

問2

設問1

〈X事業部〉

投下資本利益率：26.625% 残余利益：¥62,800,000

〈Y事業部〉

投下資本利益率：55.8% 残余利益：¥195,200,000

設問2

〈X事業部〉

投下資本利益率：13.2% 残余利益：¥24,800,000

〈Y事業部〉

投下資本利益率：29.52% 残余利益：¥112,600,000

ミニテスト 第16章 目標原価計算 (p204)

解答

問1

許容原価：¥3,510,000

問2

原価削減目標：¥240,000

問3

生産準備段階で期待できる原価削減額：¥165,000

量産段階で期待できる原価削減額：¥75,000

問4

目標原価：¥3,510,000

ミニテスト 第17章 活動基準原価計算 (p224)

解答

問1

製品A : ¥126,000,000 製品B : ¥1,134,000,000 製品C : ¥1,008,000,000

問2

製品A : ¥925,860,000 製品B : ¥528,660,000 製品C : ¥813,480,000

ミニテスト 第18章 品質原価計算 (p224)

解答

問1

予 防 原 価：品質保証教育訓練費、製品設計改善費

評 価 原 価：材料受入検査費、他社製品品質調査費、工程完成品検査費

内部失敗原価：不合格品の補修費、仕損費

外部失敗原価：販売製品補修費、返品廃棄処分費

問2

品質原価報告書

(単位：千円)

	<u>×1年</u>	<u>×2年</u>	<u>増減額</u>
予防原価			
品質保証教育訓練費	4,000	9,000	+ 5,000
製品設計改善費	35,000	67,500	+ 32,500
評価原価			
材料受入検査費	8,500	11,000	+ 2,500
他社製品品質調査費	3,000	4,000	+ 1,000
工程完成品検査費	32,000	41,000	+ 9,000
内部失敗原価			
不合格品の補修費	55,000	5,000	- 50,000
仕 損 費	42,500	12,500	- 30,000
外部失敗原価			
販売製品補修費	65,000	15,000	- 50,000
返品廃棄処分費	<u>17,500</u>	<u>7,500</u>	<u>- 10,000</u>
品質保証活動費合計	<u>262,500</u>	<u>172,500</u>	<u>- 90,000</u>